

Ⅶ 外来種の監視と防除

<主要施策の取組状況>

1 外来種の監視と侵入未然防止

① アライグマ等の外来生物の情報収集と監視

- ・ アライグマ防除実施計画に基づき、市町村から捕獲情報・目撃情報を収集した。
[捕獲数：252頭（年単位集計）]
- ・ 各種調査で設置した自動撮影カメラの撮影記録からアライグマの出現状況を確認した結果、伊勢原市の山地域で初めてアライグマを確認した。
- ・ 宮ヶ瀬でブラックバス等の外来種調査を実施している国交省および調査会社に対し、調査計画等についての助言指導を行った。[2回]

2 丹沢産緑化苗木の育成及び生物多様性に配慮した緑化手法の検討

① 丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成

- ・ 水源の森林づくり事業等で使用する広葉樹 [16種]（「水源林整備の手引き（平成29年3月）」）の安定的な供給を図るため、堂平で種子トラップ [11基] を設置するとともに、丹沢山及び檜洞丸で種子 [ブナ種子 8.7kg（うち健全種子 1.7kg）] の採取を行った。そのほか、ミズナラ [2.2kg（中川）]、モミ、イタヤカエデ、ミヤマヤシャブシ、ウツギ、ニシキウツギ、カツラ、ヤマボウシ、ヤマザクラ等の種子を採取・精選し、発芽率、成長量を調査するとともに、苗木供給可能量の推計を行った。また、県内苗木生産者への供給を行い、丹沢産の種子による苗木生産を継続した。

② **FS** 生物多様性に配慮した緑化手法の検討

- ・ 平成27年度に林道の法面緑化として、無種子厚層客土吹付工及び金網工を試験施工し、7月に専門家による経過観察を行った。その結果、全面にヤシャブシ、フサザクラ等の木本が繁茂していた。
- ・ 平成25年度に治山の山腹工として、各種緑化工を試験施工し、7月に経過観察を行った。この結果、遅速緑化（種子なし）では、先駆性樹種により植生遷移が進み、低木層が形成された。また、急速緑化（外来緑化種子使用）では、植生遷移が進まず、緑化用種子が繁茂していることを確認した。

○センサーカメラで撮影されたアライグマ

[伊勢原市]



○トラップ設置によるブナの種子採取状況

[堂平]



○無種子客土吹付による緑化状況 [相模原市緑区青根]



○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

